

## 白井第三小学校区まちづくり協議会設立準備会

### 地域活動の参加者・担い手・ 環境ワーキンググループ グループ会議報告書



#### ワーキンググループメンバー

リーダー：大野 彰

サブリーダー：松田 裕介

メンバー：小田桐 繁俊、龍野 紀子、藤田 均、山本 重男、  
中谷 美恵子、山崎 佳紀



1	分野	地域課題キーワード	地域課題の具体的内容	評価の まとめ		
	防災	①防災意識	地域・住民間の意識の差・温度差			
		②避難所・防災倉庫	避難所・防災倉庫が少ない			
		③道路	冠水・道路狭く火災時に心配			
取組み項目	重要性	withコロナの実現性	withコロナの優先順位	平常時の実現性	平常時の優先順位	
(1) 防災リーダー育成研修の開催	27	21	2	25	2	
(2) 防災訓練の開催	25	13	}	23	5	
(3) 子ども向け防災教室の開催	21	15		4	23	4
(4) 大人向け防災勉強会・教室の開催	19	17		21	5	
(5) 地域防災マップの作成 ※	27	29	1	29	1	
(6) 防災組織の充実	21	21	3	23	3	

### ワーキンググループで出た主な意見

- ◇ 自分の自治会は過疎化で高齢化のため積極的には参加できない人が多い
- ◇ 「子ども向け防災教室の開催」は学校との関係で不明確
- ◇ 重要性では「取組みアイデア」防災訓練、富士センターが重要
- ◇ 子供から発信するような形の方が皆さんとつきやすいのではないかと考えた
- ◇ 地域防災マップはコロナ禍でもとつきやすいのではないかと。そして皆さんの声が拾いやすいと思った
- ◇ 避難訓練については普段から参加率が悪く課題になると思われる
- ◇ 防災訓練の実施については、富士センターまで歩くのが限りなく遠く毎年訓練に通えないのが実情である。富士センターまでは徒歩で30分かかるが、北総白井病院の大きな駐車場がすぐ近くにある。いざという時に富士センターまでは逃げられないというのがみんなの意見である
- ◇ いざという時には防災の用意はしてあり、自分のことは自分で守るという風潮の人が多く
- ◇ 過疎地域だからこそ若い人が出てきてやってくれればなあと思う
- ◇ 自己防衛意識が高く支援物資だけもらえれば皆さんは自宅避難をするといっている
- ◇ 東日本地震を乗り切ったとの意識を持っているため少々の地震では大丈夫との意識を持っている
- ◇ 自治会の半分以上が80歳以上であるため、自宅で何とか自分は生きのびるという考え方をしている人が圧倒的に多い
- ◇ 特に重要なものは防災リーダーである
- ◇ みんなが分かりやすい防災マップ作りが重要である
- ◇ 防災連合会を進化する前に防災リーダーを増やす作業が必要

- ◇ 平常時の実現性としては全部やった方がよいが、with コロナでの実現性として防災教室などは難しいがマップの作成及び防災リーダーはできると思われる
- ◇ 私はマンションのため皆さんとは異なる、自治会として「防災会」を作っている
- ◇ 災害時に富士センターや第三小学校に行かずに自分のマンション内ですべてをまかなえるように進めている、マンション内の駐車場へ避難したり浄化槽をうまく利用していこうと考えている、浄化槽は災害時には困りをつけてトイレにもなる
- ◇ 子供の防災教室のみを「5」とした。子どもが理解をすることが必要であり、子どもから大人へしっかりと伝えられるようにすることが必要である
- ◇ 防災連合会を組織として運営していく、防災意識を皆で高めていくのをあえて逆に組織化せず全員に持ってもらった方が手っ取り早い。それを各家庭に浸透させるような活動をするのを連合会でやるのであれば大賛成、イベントをやり啓発していくよりも、個々の家庭に啓発し防災についてのやり方を浸透させたほうが間違いがないとの思いがある、組織立ってやってしまうと組織に関わってこない人はおろそかになってしまう
- ◇ 自分の自治会では自分達でなんとかするという考えの人が多。この点で皆さんの考えとは少しずつれているところがあると思われる。啓発を組織が行うのは構わない。即ち組織として固まるのではなく組織として全体気配りができることが重要である
- ◇ 復四自治会では集会所も壊したので何もなく防災倉庫も無い、あるのは町会の真ん中に防火水槽があるだけであり、丸山自治会も同様
- ◇ ロジュマンでは一軒一軒を回り防災組織を作り防災倉庫も用意した、コロナが落ち着けば更に宣伝をしていくつもりである
- ◇ 小さな炊き出しでもよいので子どもを介して近所が集まることで結束が強まる
- ◇ 富士西自治会はどこの避難所からも遠く世帯数も多いので分断されている、避難訓練も出席率がよくないのが現状。小回りが利かずそのため住民の意識が低い
- ◇ この地区は東日本大震災でも被害が少なく乗り越えることができ、地理的には近くに川が無いので洪水の心配もなく、そのため災害に対する意識が低い
- ◇ 地域の特性があるからこそそれ等を纏めるリーダーが必要となる、防災リーダーを増やし、皆が集まり啓発できる組織ができれば完成である。地区の中、自分で賄うことができない人たちをどうするのが重要
- ◇ 第三小学校区のまちづくりであるが、自治会により事情・内容が異なるため一元的に同じようなやり方でよいのかが問われる
- ◇ 人口の多い地区では高齢者が増え、高齢者のみの世帯が増えている。そういう方に何かが起こった場合のためにきちんと情報を把握しておく必要があり、それが防災の組織であるが、個々の個人情報を集めるのは非常に難しいのが現状であるため、民生委員との連携も必要となってくる

まちづくり計画 目標・取り組み(事業名)・取り組み(事業)内容

将来像	テーマ (分野)	目標 (基本方針)	取り組み(事業)名	取り組み(事業)内容
<p>子どもと大人がふれあうまち</p>	<p>防 災</p>	<p>(案) 子どもをつなげること 全体の防災意識を高める</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域防災マップの作成</li> <li>2. 防災リーダーの育成</li> <li>3. 防災組織の充実</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①防災リーダーが中心となりマップを製作</li> <li>②完成した子ども達に自宅周辺の防災地図を描いてもらう (子供の目線で見えた危険個所の記入)</li> <li>①防災リーダー研修への参加</li> <li>②防災リーダーのマニュアル作成</li> </ol>

<b>7</b>	<b>環境</b>	地域課題キーワード	地域課題の具体的内容	<b>評 価 の ま と め</b>
		①ペットマナー	犬の糞が多い	
		②ゴミマナー	マナーが悪い(家庭のごみ出し、ごみの投げ捨て、ごみステーションの扱い、資源回収のPRが不足)	
		③草の管理	空き家の草刈りが不十分、通路の雑草	

取組み項目	重 要 性	withコロナの実現性	withコロナの優先順位	平常時の実現性	平常時の優先順位
(1) ゴミ捨てのマナー啓発活動の実施	<b>18</b>	<b>20</b>	<b>1</b>	<b>22</b>	<b>1</b>
(2) ゴミゼロ運動の充実	<b>20</b>	<b>14</b>	<b>2</b>	<b>18</b>	<b>2</b>
(3) 草刈り等による環境づくり	<b>22</b>	<b>20</b>	<b>2</b>	<b>16</b>	<b>2</b>
(4) 環境組織の創設による活動推進	<b>20</b>	<b>20</b>	<b>1</b>	<b>16</b>	<b>1</b>

### ワーキンググループで出た主な意見

- ◇ 「ゴミゼロ運動の充実」と「草刈り等による環境づくり」は地域の皆さんにとって顔を合わせやすく、直接情報交換が可能である
- ◇ 特に資源ゴミについて出し方に問題がある、南園区にはゴミステーションが50か所あり場所としてはきちんとしている
- ◇ 問題は犬のふんである
- ◇ 草刈については自治会としての共同の作業は無く、ゴミゼロを12班が班別に年2回実施している
- ◇ 草刈としては「南園広場」の芝刈りをグラウンドゴルフで毎週行っている
- ◇ 「ゴミ捨てのマナー」が非常に悪く、回覧を回しても張り紙をしても効果がない。明らかに事業ごみと思われるものあり、もうあきらめの状態である
- ◇ 環境推進委員が廻っているが手に負えない状態であるため、もっと強く言える組織を作ってほしいと思い「環境組織の創設」を「5」とした、組織ができればいろんな人に知ってもらえる機会となる
- ◇ 14軒しかない自治会のためきちんと出す人が多く集荷日以外にだす人もいないが、よその地区から来た人が置いていく場合もあったため、その際には警告書を張りだした
- ◇ 役員の交代時に犬のふんについての指摘があったので、1週間にわたり毎日朝、昼、晩と犬の散歩者に直訴を行いふんの持ち帰りを要請し今は無くなったが、それができるのも地域が狭く限られているため
- ◇ 時々粗大ごみの放置があり、個人の所有地にあるものは市役所への撤去要請ができない
- ◇ ゴミは近隣トラブルにもつながるので、組織としてやっていけば変わってくると思われる
- ◇ まず環境組織を創設し、そこに内容を入れていけばよいのではないかと

- ◇ 「取り組み（事業）名」を1本に絞り、それに「取り組み（事業）内容」を1，2，3と入れていくのはどうか
- ◇ 基本方針に「子どもと一緒に全体の環境意識を高める」があるので「取り組み（事業）名」と「取り組み（事業）内容」に子供と一緒にという要素を入れてゆきたい
- ◇ 「組織」に子どもを入れてゆくのか、取り組みとしてマナー啓発活動の実施に子どもを入れてゆくのか、あるいはゴミゼロ運動の活動の方に子どもを巻き込んでいった方が良いのか
- ◇ 組織に子供を入れてゆくというのは現実的ではないかもしれない
- ◇ 取り組みの中に子供に対する環境学習の実施を組織としてやってもらう方法もある
- ◇ 基本方針に「子どもと一緒に」が含まれているのであれば環境組織を作ったうえで、そこが子どもにたいする環境学習等を行えばよいのではないか。子供に学んでもらって一緒にやる
- ◇ 現在各自治会におかれている生活環境指導員は市が会長に依頼し1名から複数名を選出し1年間委嘱している。そして生活環境指導員には報酬が発生している。しかし生活環境指導員には横のつながりが無い
- ◇ このまま「まちづくり計画」で組織を作った場合には現在ある生活環境指導員とは別々のものになる

まちづくり計画 目標・取り組み(事業名)・取り組み(事業)内容

将来像	テーマ (分野)	目標 (基本方針)	取り組み(事業)名	取り組み(事業)内容
<p>子どもと大人がふれあうまち</p>	<p>環境</p>	<p>(案) 子どもと一緒に全体の環境意識を高める</p>	<p>1. 環境組織の創設による活動促進</p>	<p>①ごみ捨てマナー啓発活動の実施 ②ゴミゼロ運動の充実 ③草刈り等による環境づくり</p> <p>※学校と協力・連携についても検討が必要。</p>



<b>9</b>	<b>分野</b>	<b>地域課題キーワード</b>	<b>地域課題の具体的内容</b>	<b>評 価 の ま と め</b>
	<b>地域活動の参加者・担い手</b>	①地域活動の参加者	同じ人しか集まらない、どの団体も参加者が似ている	
		②地域活動の担い手	後継者が少ない、役員不足による負担の増加、消防団に入ってくれない、若い人の地域への関心が低い、後継者への引き継ぎ不足、団体の認知度が低い	

取組み項目	重 要 性	withコロナの実現性	withコロナの優先順位	平常時の実現性	平常時の優先順位
(1) 地域人材の登録活用制度の創設	<b>29</b>	<b>19</b>	<b>1</b>	<b>25</b>	<b>1</b>
(2) イベント情報の集約発信	<b>25</b>	<b>23</b>	<b>2</b>	<b>23</b>	<b>2</b>
(3) 青年部の創設	<b>25</b>	<b>17</b>	<b>1</b>	<b>23</b>	<b>1</b>
(4) 地域活動へのインセンティブの導入	<b>19</b>	<b>13</b>	<b>3</b>	<b>19</b>	<b>3</b>
(5) 若い世代を呼び込む方策の検討・実施	<b>23</b>	<b>15</b>	<b>2</b>	<b>21</b>	<b>2</b>

### ワーキンググループで出た主な意見

- ◇ ポイント制の導入により地域活動に興味を向けてくれる人が出てくるかもしれない、また、PTA を含め子どもを取り込むことにより地域活動への参加のきっかけとなる可能性もある
- ◇ 世代を問わず組織を作っていくことは非常に大変なことであるが、趣味のようなもの、同じものを追っかけるものであれば多少世代が代わっていてもやっていけると思われ、それらを踏まえて地域活動の中で組織の担い手を発掘し育てていく
- ◇ 南園区では自治会として年に 1 回子どもから老人までが集いレクリエーションを実施していて、子ども、大人、老人と一緒に集まり色々な人たちをつなげるきっかけとなっている。この第一目的は世代間交流である
- ◇ 中高生から大学生の世代はなかなか興味をしめしてくれない、子どもからの参加がずっと続いてくればよいが、中学生ぐらいからは恥ずかしさもありなかなか続かない。もっと魅力的なものにできるようにすればよいのだが
- ◇ 富士センターでは毎年「世代間交流」を地区社協や老人会の協力を得て実施、目標としては子どもたちと大人、高齢者とのふれあいである
- ◇ 復四町会では世代がいらないだけで 2 か月に一回ほどバーベキュー大会を行い、子どもを呼んだり孫を連れてきたりしてきた。それにより横のつながりはかなり確保できている
- ◇ 富士自治会では最近ツーリングクラブができ約 7 人が参加、草刈等も行っている。更に芋煮会も毎年行っているが、リーダーとなる人が必要である
- ◇ 地区社協のラミチェでは「グラウンドゴルフ」や「歩こう会」を実施しており約 20 人が参加した。参加者は殆どが 60 歳以上の年配者。子どもと一緒に参加すればもっと楽

しいものになる

- ◇ 色々な取組は子どもの世代とシニアの世代をくっつけたいというニーズのもとになされている。中高生及び大学生の世代が参加でき、世代が繋がる地域活動となっていくように感じられた。これからはそのようであればならない。それを作り上げていける方針にしていくのが重要である
- ◇ 一番肝心なところはその壁をどのように壊すかである。中、高、大学生及び新たに職につきはじめた若い社会人たちをどのように取り組んでいくか
- ◇ 高齢者が集まるサロンのようなものを、若い人向けに弾力的にテーマをその時々で決めれば、地域に興味のある若い人を集められるのではないか
- ◇ 放課後に子どもたちが集まれる場所を学童保育のように提供できれば良いと思う
- ◇ ボランティアである「太鼓クラブ」は中学・高校の年代は少なく、ティーンエイジャーには参加するのが難しい。しかしお祭り等で遊びに来るきっかけにはなる
- ◇ 「地域活動へのインセンティブの導入」が捨てがたい。これにより若い人たちを取り込むことができる。また若い人のみでなくもっとプロ意識の高いものをもっていけば、忙しい人達への補助にもなる。大人も子供も忙し過ぎて地域活動をやれない人たちにもインセンティブはこれから重要になってくる
- ◇ 事業内容としては自治会を超えた地域の人材の登録制度が青年部となるのか？取り組み事業名としては地域活動を担う何等かの部の創設とすればどうか
- ◇ 「地域人材の登録制度の創設」と「青年部の創設」をひっくるめたものとして世代に関係なく誰もが入れる「地域活性委員会」(仮)として発足した方がよいのではないか、これにより一つの事業として出来上がる。イベント情報の集約発信もでき、「若い世代を呼び込む方策の検討・実施」もクリアすることができる
- ◇ インセンティブについてはどのポイントと結びつけるかであるが、やり方によっては商店の活性化にも繋がる
- ◇ インセンティブについて、取り組み項目とする前に上がっていた意見は、地区で応援できる野球やサッカークラブに協力した人に何々賞を出すとか、イベント等に参加するともらえるポイント制度等であり、担い手を集めるのも目的ではあるが世代を超えた地域の担い手をつくるのが肝心なことである
- ◇ 若い世代を呼び込むきっかけのために地域活動を検討する、地域活動へのインセンティブは管理が難しいが若い人たちに魅力を感じてほしいし、私たちが意図したものである
- ◇ 小学校のPTAでは、ポイントを集めるために役員をやったりバレー部に入る等の項目がある、そういうポイントを共有し地域活動をインセンティブのポイントに混ぜてもらおうなど、今ある各種のポイントを含めるなどの方法がある
- ◇ ポイントの協力先が沢山あればよいが、それでもティーンエイジャーに参加してもらうのは難しい、20、30、40代はカバーできるかもしれない
- ◇ 中、高、大学生向けのインセンティブがほしい
- ◇ ポイントカードを作り、たまればQUOカードや図書カードと交換できるようなポイント制にすればよいのではないか
- ◇ お金をかけずできる方法を探し研究することが最初では
- ◇ テーマとしてはインセンティブが目当てだったとしても、それで地域の活動にまず参加してもらうことが重要であるという考え方であれば、インセンティブをつけるための方法を考えていけばよい
- ◇ 若い世代を呼び込む方策の検討として、導入のための情報の収集と具体的なやり方を考えることであって導入まで行くには3年ではきつい

## まちづくり計画 目標・取り組み(事業名)・取り組み(事業)内容

将来像	テーマ (分野)	目標 (基本方針)	取り組み(事業)名	取り組み(事業)内容
<p>子どもと大人がふれあうまち</p>	<h3>地域活動の参加者と担い手</h3>	<p>(案) 世代を超えた地域の担い手づくり ～集まれ地域の担い手～</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域活性委員会(仮)の設立</li> <li>2. 若い世代を呼び込む方策の検討・実施</li> </ol>	<p>①地域人材の登録制度の創設 ※自治会を越えた第三小学校区地域の人材。 ②イベント情報の集約発信(SNS、紙媒体)</p> <p>①地域活動へのインセンティブ導入の検討 (やり方の情報収集)</p>